府中市健康地域づくり審議会
第1回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成24年11月30日（金） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階第2応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
下 澄 子（分科会委員） 吉 原 純（分科会委員）
平 地 緑（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）
藤 井 敬 子（分科会委員）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 審議会事務局長あいさつ
市民生活部長あいさつ
- (3) 分科会長あいさつ
谷秀樹分科会会長あいさつ
- (4) 委員委嘱
委嘱状の配布並びに委員及び事務局員の自己紹介を行った。

(5) 議事

① 指示事項及び関連資料の説明

- ア 府中市健康地域づくり審議会体制の説明
- イ 府中市健康地域づくり審議会関係分科会体制の説明
- ウ 府中市健康地域づくり審議会体制の見直しについて（提言）の説明
- エ 次世代創造分科会への指示事項についての説明

府中市の人口減少に歯止めをかけ、次世代を担う人口量を確保するため、官民一体となった雇用、婚活、出産、子育ての分野について協議し、今後10年程度の間、市が重点的に取り組まなければならない方向性をまとめ、府中市健康地域づくり審議会への報告を求める。

なお、方向性の策定に当たっては、「子育てするなら府中市で」と選ばれる環境の整備、ひとり親家庭等であっても自立して子どもを産み育て暮らしていける方策等、旧来の家族形態にとらわれない他自治体に先んじた斬新な取り組みの検討を求める。

政策指標：次世代を担う人口の量の確保

オ 次世代創造分科会の資料説明

府中市の次世代人口の現状と今後について、府中市及び全国並びに諸外国の年齢別の人口推計、出生率などのデータ及びを説明した。

また、婚姻・出産・子育てをめぐる意識についての現状の説明や「子育て支援」

における先進的取り組み事例の紹介を行った。

② 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 即効性があるものと、長い目で見て計画していき、子どもを産みたいと思ってくれる人を育てることが重要になってくる。
- 子育てしているお母さんが働くことのできる環境づくりが必要ではないか。
- 父親についても、子育て世代の人に対して、会社・企業としての取り組みも大事ではないのか。
- 府中市の子育て支援については充実している。そのようなところは、逆に売りになるし、他の市町村の方にも教えてあげたいと思う。
- ポムは創立以来福山方面から来られる人は多かった。プレイルームも子どもを中心に遊びやすいように考えて作られている。
- 府中に帰りたい、府中に住もうとか思う人に対し、Uターン・Iターンを支援する行政の部署が必要ではないか。
- 最近、「府中市が元気になった。」という話を聞いた。私もそのことを感じている。もっと外にPRしていったらどうかと思う。
- 中心地である駅前には、駅やバス停はあるし塾もある、しかしながら空家と貸店舗と空き地ばかりである。住みたいニーズはあるが土地の値段が高い。何とかあいている土地とか住んでいない家をリフォームして貸すなどできないか。
- 空家バンクのようなものをネットで流したりできれば。それを若い人が購入しやすい値ごろになればよい。
- 若い人は、古い家に住みたいと思う人が増えている。
- 兄弟で別の保育園に行かなくてはならない人がいることは問題がある。
- 空家などの情報提供をして他の町からきて、人口を増やすことについて、行政的に取り組んでほしい。
- お父さんの就労について考えなくてはいけない、また、お母さんが働きやすく育児ができ休暇が取られるような体制が必要。
- 乳幼児医療面では、困っているお母さんが多い。夜間行くところがない。
- 府中市の人口で、30～34歳の人口が減っている。「家賃が高い」と言って結婚したら出て行く。
- 高木町は人口が多い、分譲されどどんどん住んでいる人が増えている。それと、住みやすい。
- 住む場所の決定権を持っているのは妻と思う。その年代(30～34)の人の妻が住みやすく、メリットがある町づくりが流出に歯止めをかけるのでは。
- 結婚して府中に来たお母さんへの、子育て支援情報の提供が必要。また、他市から来られたお母さんの方が、友達を作ろうという気持ち強い人が多い。

- 個人情報保護等により、地域の子育て世代の情報が入手できないため、子育て支援の情報提供や支援ができない場合もある。また、組に入っていない若い人が多く、新聞も取っていないので、広報も入らないため、尚更である。
- ファミリーサポートも便利と思うが、反面怖いと思う気持ちもあり利用する勇気が出ない。
- 一時保育があるが、枠があり利用しづらい。

(6) 分科会副会長あいさつ